

平成31年度(令和元年度) 施設としての自己評価

沓谷 おひさまの森保育園

平素は沓谷おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
絵本の選書	2	絵本を通して何が育つのか?そのために絵本を読む(見る)時間を保育の中でどのように捉え、用意したらよいのか?絵本の選書から、子どもが絵本の世界に浸ることができる環境設定を話し合い、保育現場での実践を行った。
発達に応じた選書を行う。絵本に親しむ、浸る時間を考え実践していく。		
言葉の発達	2	言葉の発達段階、機能発達、体得するためのメカニズムを学び共有した。保育者は、ただ語彙を増やしたり発語を促す関りをするのではなく、人と話したいという気持ちや、自己を表現すること、人とコミュニケーションを取り、生活を快適にしたり発展的に構築させるために育ちを追って分析し考え、子どもの育ちに沿った保育者の言葉の使い方や語り掛けを、日頃の振り返りをしながら職員全員で話し合った。
言葉の発達を理解し、子どもに対し一番適切であり、発達を促す言葉掛けを考える。		
●職員研修		
感染症拡大防止	3	集団での健康や安全を守るための日常の衛生管理、感染症罹患者が出たときに拡大を防いだり、重症者を出さないための対応や連携を共有した。また、日常で行う一つひとつが、なぜ必要なのかを考えたり、見直しを行うことで、より一層、園に集う人たちの命を守る意識を高める機会となった。
保育職員、給食職員ともに感染症予防や拡大防止を行っていく。		
体罰について	3	生きている長さ、体格、経験、言語…大人と子どもとは力の不均等が生じるという根底の認識確認と、『マルトリートメント』=不適切な養育ということについて。子どもが傷つく行為はすべてマルトリートメントで、これによる子どもの発育への影響は科学的にも証明されている。子どもと関わる中で、辱めたり価値を下げるような言葉掛けや対応はないか、個々に振り返り反省するとともに、子どもたちの人権、つまりは安心・自信・自由が守られる関りと生活を考えた。
『体罰』を知り、保育者としての在り方を考える。		

【総評】

3年目を迎え、毎日子どもたち・保護者様が通ってくださっていることに感謝しております。子どもたちが生活する場として、また、常に関りながら生活をともにし、育ちをサポートしていく人としてどうあるべきか?について、職員全員で考えて参りました。子どもたちの育ちに向かい合う姿勢を常々確認し、保護者様の子育てのパートナーとなれるよう、意識高くより一層保育の向上に努めて参ります。

令和2年4月1日
園長 松永有加